morimoto report Vol.41 2021・May.

医療法人橘会　東住吉森本病院　地域医療連携センターだより

発行者：寺柿 政和 / 事務局：地域医療連携センター・広報室

http://www.tachibana-med.or.jp/　〒546-0014 大阪市東住吉区鷹合 3 丁目 2 番 66 号 TEL:06-6606-0010（代表）Fax:06-6606-0055

【院長挨拶】

4 月に入り新年度を迎えました。医療従事者へのワクチン接種が順次始まったとはいえ、COVID-19 感染は変異株の拡大による第 4 波に入り、緊張を強いられる毎日が続きます。この 1 年を振り返りわれわれはどんなことを経験したのか、改めて考えてみました。100 年に 1 度といわれるパンデミックの発生で、当初はその感染様式、感染力、重症化の程度、予防対策など全く未知の状況で、手探りで対応していた感があります。そのうちに相手の性質が少しずつ分かるようになり、日常では「三密」や多人数での集会・飲食の回避が求められるようになりました。医療現場でも抗原・PCR 検査体制や受入れ病床の整備など、「検査と隔離」という対応を重ねて来ました。しかし第 3 波になると医療機関・介護施設・老健などでのクラスター発生が深刻で、現在でも病院・施設の面会は厳しく制限される状況になっています。そんな中われわれは感染対応と通常診療を両立させる必要性に迫られています。

4 月から診療部には新たに 13 名の常勤医師と 5 名の臨床研修医を迎えました。これからも地域で求められる医療を続けていきたいと考えています。

寺柿　政和

【2021 年度 東住吉森本病院 新入職員入職説明会開催】

4 月 1 日に医療法人橘会　東住吉森本病院　新入職員入職説明会を開催いたしました。密を避けるため、会場を 2 つに分け、祝辞もビデオで行うなど感染対策に一工夫加えての実施となりました。新人の皆さんにとっては、大変な時期での入職となりましたが、元気に頑張っていただきたく思います。

【2020 年度 基幹型研修医臨床研修修了証交付式開催】

3 月 30 日、恒例の臨床研修修了証交付式を開催いたしました。昨年より新型コロナウイルス流行の影響を鑑みて院内でささやかに実施しており、今年は特に厳しい「大阪第 4 波」のなか、感染対策を十分に講じながらの開催となりました。

2021年度　医局人事のお知らせ

医局

2021年度は下記のような異動となりました。4月からの外来担当表は当院Web等をご参照ください。

診療科	入職	退職
消化器内科	北村　寛之、櫛山　菜穂子、田島　光	橋村　直英、和田　嵩史
循環器内科	佐藤　達也	
外科	三浦　光太郎、宮崎　徹、橋本　拓朗	橋場　亮弥、江田　将樹、木下　広敬
整形外科	山本　耕平、上野　健太郎、福山　建太朗、澤田　啓、岡　誠	住友　暁、信貴　政人、斉藤　公亮、森　逸、山下　竣也
形成外科	東野　えりか	橋本　葵

医療法人橘会　東住吉森本病院　ホームページ:https://tachibana-med.or.jp/

【連載 no.23】緩和ケア病棟の対象患者

緩和ケア病棟　師長　江口　由紀

地域のがん診療拠点病院として機能を強化するために緩和ケア病棟を開設し、9年目に入ります。改めて、当院の緩和ケア病棟についてご紹介したいと思います。

「緩和ケア病棟って人生最期に入院するところよね？」や、「どのような状態になったら緩和ケア病棟に入れるの？」や、「緩和ケア病棟では何もしてくれないのよね？」等の質問が未だ多く聞かれます。看取りのイメージが強い緩和ケア病棟ですが、一般的に3つの役割があります。①看取り、②症状コントロール、③レスパイトです。当院の緩和ケア病棟もこの3つの役割を担っております。分かりやく表に示しました。下記をご参照ください。

緩和ケア病棟には専従医が2名の他、がん関連の認定看護師も配置して、スタッフと協力しながらつらい症状をできる限り和らげるための治療とケアを提供しております。

今後も、がん患者様達のつらさを専門的に和らげる緩和ケア病棟をどうぞご利用ください。

緩和ケア病棟の対象患者

目的	対象患者	実践
看取り	【予後予測2か月未満の方】 【常時臥床状態になった方】 【食事や水分が摂れなくなった方】	・症状緩和 ・日常生活支援 ・グリーフケア
症状コントロール	【がんによる症状で治癒不可能な方】 ・疼痛 ・呼吸困難 ・倦怠感 ・嘔気や嘔吐 ・腹満感 ・不眠 ・不安 ・せん妄など	・症状緩和 ・原因評価のための諸検査 （血液検査、CT、MRI、内視鏡検査等） ・積極的に薬物を導入 ・非薬物療法の検討 （放射線治療、ブロック、胸水穿刺、CART等） ・ケアの併用 ・症状緩和ができれば退院支援・調整
レスパイト	【主介護者の一時休養が必要な方】 ・あらかじめ退院日を決めて入院 ・一週間程度	・日常生活支援

【連載 no.22】新型コロナワクチンの接種で感染予防の底上げを　感染防止対策室　室長　荻田　千歌

新型コロナワクチンには、重症化の予防や、発症を予防する効果があります。接種により重症者や死亡者が減ること、特に医療・介護の現場では医療者に対する感染予防策として、その効果に期待されています。
当院では３月～４月にかけ医療従事者を対象としてワクチン接種を実施しました。

〈国内で承認されているワクチン〉

ファイザー社（米）薬事承認：2021 年 2 月 14 日
ワクチンタイプ：mRNA ワクチン　接種回数：2 回　接種間隔：21 日間隔

〈ワクチンの効果〉

最も高い発症予防効果が得られるのは、２回目を接種してから７日程度経って以降です。また、ワクチンを２回接種した場合の有効率は約 95% と報告されており 100% の発症予防効果が得られるわけではありません。

〈ワクチン接種の副反応〉

注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み等がみられることがあります。まれな頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生することがあります。

〈ワクチンによる発熱〉

ワクチンによる発熱は接種後１～２日以内に起こることが多く、ワクチンによる発熱か、新型コロナウイルス感染症かを見分けるには、発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がないかどうかが手がかりとなります。（ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません。）

当院では、ワクチンを受けた後、２日以上熱が続く場合や、ワクチンでは起こりにくい症状がみられる場合には、受診されることをお勧めしています。

当急変に対応できるよう救急カートや心電図モニターなどを準備しました。

2021.4.27　感染防止対策室　荻田千歌

【連載 no.07】地域医療連携の窓　地域医療連絡室　係長　杉井　健祐

本年度、地域医療連携センター（地域医療連絡室・医療相談室・ベットコントロール室）へ係長として配属となりました杉井と申します。前年度までは医療相談室のソーシャルワーカーとして責任者を担っておりました。ソーシャルワーカーとしての「つながる・つなげる」実践を活かし、地域医療・介護の連携推進にお役に立てればと思っております。

昨年度はコロナ感染対策に伴い、顔が見える連携・つながりが途絶えた１年でした。その中でも何とか地域医療・介護で共に支える実践を継続するために、オンラインで共に学び・つながる場を創出してまいりました。オンラインでの研修では計10回で320名の方にご参加頂き、オンデマンドでの動画配信では26動画で995回のご視聴（4/19時点）をして頂いております。以前のような連携ができる日まで、今年度も新たな『つながる』実践を続けてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

【「新型コロナワクチン希釈を想定した手技講習」を開催】

「新型コロナワクチン希釈を想定した手技講習」（東住吉区薬剤師会主催｜2021 年 2 月 27 日）を開催しました。地域連携事業の一環として当科薬剤師 4 名が講師を務めました。講習会開催趣旨は，新型コロナワクチン集団接種時にバイアル希釈やシリンジ分取を薬局薬剤師が担うに当たり，取扱い手技を取得するための講習です。保険薬局では注射剤の取扱いがないのでバイアル操作に慣れておらず，本番までに手技取得を確実なものにしようという前向きな取り組みです。当日は他区他府県からも含め約 70 名の参加あり，保険薬局薬剤師の高い関心が伺われました。新型コロナワクチン集団接種に向けては ALL 薬剤師で対応するために，当科がお手伝い出来た事は非常に意義深く感じます。集団接種の開催時期が見えない中，継続した講習会の実施に協力して参ります。この講習会は大阪府下で初めての取組みということで，マスコミ（NHK，薬事日報，ドラビズ）にも取り上げていただきました。引き続き地域連携に対してはいろいろな取組を活性し，地域の薬物療法に貢献して参りたいと考えています。　薬剤科　野村剛久

【連載 no.02】For safe medical care　～KYT でリスク感性を磨こう～

医療安全管理室　石津 真由美

医療安全文化醸成のためのトレーニングとして「KYT（危険予知トレーニング）」があります。自然災害や火災のシミュレーションと同じように、「この場面では何が危険か」を考えるトレーニングです。医療現場だけでなく、建設現場や交通機関など多くの職場で取り入れられています。以前、別の施設の話になりますが、車椅子で自走する高齢者の患者さんが入院されていました。もちろん転落防止のためにベルトは付けています。ある日の夜勤前、自走していた患者さんの車椅子に夜勤の看護師が、病棟を離れる数分間のつもりで自走が上手くできないよう片方の車輪に包帯を巻きつけてしまいました。「自走すると危ない」と思ったのでしょう。結果、患者さんは直進できず、弧を描くように自走し、あろうことか階段から車椅子ごと転落してしまいました。KYT を日常的におこなっていれば「階段は危険、階段の扉を閉める」と考えられたはずです。

幸い患者さんは無傷でしたが、今思い出しても怖い出来事です。KYT では①何が危険か ②なぜ危険か ③どのような不利益が生じるか ④どう改善すればいいかを考えます。「少しくらいいいか」「今だけならいいか」といった僅かな緩みが重大な事故に発展することがあります。定期的に KYT をおこない、リスク感性を高めることは「医療の安全の質の担保」に繋がります。

病院理念

1．患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2．地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3．より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

基本方針

1．「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2．地域完結型の医療サービスを提供します。
3．地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4．自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

患者さんの権利

1．個人の尊厳の保持
2．良質な医療を平等に受ける権利
3．十分な説明を受ける権利
4．検査・治療を自ら決定する権利
5．医療について知る権利
6．プライバシーの保護
7．セカンドオピニオンを受ける権利

東住吉森本病院　地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
（地域医療機関・施設さま専用）
メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp
電話：0120-65-0343　FAX：0120-10-5260
【受付時間】　平　日 9：00 ～ 20：00
土曜日 9：00 ～ 17：00

地域医療連携センター長　坂上 祐司

＊東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。　https://www.tachibana-med.or.jp